

## アクション・リサーチのまとめ

学校名 岐阜県立関高等学校  
研究年度 20 年度 研究対象 (学年クラス等) 2年 生徒数 318 名  
科目名 英語Ⅱ 単位数 4 使用教科書名 「UNICORN ENGLISH COURSE Ⅱ」(文英堂)  
副教材 「ターゲット1900」(旺文社) 週4回小テストに使用 授業形態 クラス単位 (計35~45名)

科目名 Writing 単位数 2 使用教科書名 「POLESTAR WRITING COURSE」(数研出版)  
副教材 「Next Stage 英文法・語法問題 (桐原書店) 週2回小テストに使用  
授業形態 2クラスを3分割 (約30名) 習熟度別

### クラスの様子・特徴

- A コース (習熟度の高いクラス) : 教科書2ページほどの文章を読んで、その内容をほぼ理解できる。その読解力を支える基本的な文法事項と基本単語を身に付けている。
- B コース : 教科書1ページほどの文章でも、理解できない単語や文法事項が一つでもあると概要が理解できない生徒が半数を占める。基本的な文法事項や基本単語について十分理解できているとは言えない。

### 問題の特定

- A コース : センター形式の比較的平易な文法問題には対応できても、速読多読を中心とした長文問題に弱い。また長文内の指示語の内容理解などを特に苦手とする。小説や物語などの筆者の視点を追いかけて読解してゆくタイプの英文では、母国語での読書量の少なさを反映して不得手とする者が多い。
- B コース : 授業を通して理解はできるが、力として定着していない。継続的に学習を積み重ねる習慣に欠け、苦手意識を持つ生徒が多い。

### 現状把握

#### A 授業観察

- 音読、ペア活動は極めて真面目な取組を見せる。
- 範囲の狭い小テストに、積極的に取り組むことができる。
- 予習の仕方が定着しておらず、「どのような疑問点を解決するために授業に臨むのか」を意識しないまま授業を受けている生徒が少なくない。
- 週末課題・小テストの追試等を期日までにできない生徒がいる。

#### B GTEC

Reading : 概要を把握することはできても、根拠に基づいた読み取りをする読解力が乏しい。

Listening : 習熟度に幅広い層がある。

Writing : 文法規則に基づいて英文を正しく構成することができない。

#### C 質問紙調査

学ぶ側…家庭学習習慣が定着していない。(「予習」「復習」の時間の確保とその取組が十分行われていない。)  
教える側…昨年度と比較すると、内容の難化に伴い、文章の内容や自分の解釈が聞き手に伝わるように音読させる場面が減っている。

リサーチ・クエスチョン

読解力を高めるには、語彙を安定させると同時に、多くの英文に触れることが必要ではないか。

仮説・実践・検証

仮説 1

全ての生徒に基本単語 1500 語を習得させるために月例単語テスト「Word Marathon」を昨年度に引き続き実施することによって、語彙力が向上するのではないか。

実践 1

授業で行う週 4 回(1 回 30 語)の単語テストに加え、月 1 回(1 回 100 語以上)「Word Marathon」を行い、合格点を 70 点に設定し、不合格者は合格するまで取り組むように徹底する。

検証 1

計 7 回実施した。生徒の間にも定着し、積極的に楽しんで取り組む生徒も多かった。合格するまで徹底したことにより、苦手な生徒も達成感を味わうことができた。

仮説 2

比較的容易な英文を読み、読めることを実感させることによって、読解力が向上するのではないか。

実践 2

週 4 回、速読教材(約 5 分)に取り組む。1 ヶ月集中的に行う。

検証 2

自分の語彙力で英文が読めることを実感すると同時に、語彙の重要性を再認識することができた。

仮説 3

多読に取り組むことによって、読解力が向上するのではないか。(限定クラスのみ)

実践 3

多読教材(オックスフォード大学出版局)を利用する。

検証 3

授業時間内は興味を持って英文を読むことができるが、定着には繋がらない。定着させるためには、より計画的な取り組み方を検討する必要がある。

リサーチ・クエスチョン

英語を使用する場面を設定することによって、英語力が向上するのではないか？

仮説・実践・検証

仮説 1

音読を積極的に行うことによって、リスニング能力が向上するのではないか。

実践 1

毎授業で音読活動を 10～15 分間取り入れ、教材にふさわしい音読のペアワークの練習を取り入れる。  
 ①Read and Look Up  
 ②Overwrapping  
 ③Shadow Reading  
 ④Syllable Reading  
 ⑤穴あき Reading  
 ⑥通訳 Reading

検証 1

教材に応じて、左にあげた①から⑤の音読の練習を選択し実践した。レッスンごとに練習を変えることで、または組み合わせることで、最初は苦手意識が強かった生徒も、繰り返し行うことにより自分自身で上達を実感することができた。聞き取ることができる英語が増え、積極的に英語を聞こうとする姿勢につながった。

## リサーチ・クエスチョン

ペア活動、グループ活動の導入によって、学習習慣が改善するのではないか。

### 仮説・実践・検証

#### 仮説 1

クラス全体の集団の力を高めることによって学習習慣を改善することができるのではないか。

#### 実践 1

ペア活動、グループ活動を取り入れる。

#### 検証 1

やや困難な音読活動や小テストの答えの確認でも、ペアワークの中で、教え合ったり、分からないことを解決することで、互いの伸長を確認し合う楽しい活動となった。互いの良い刺激にもなった。

#### 仮説 2

達成感を抱くことができる場を設定することによって、英語学習に対する意欲が向上するのではないか。

#### 実践 2

小テスト・月例単語テスト（Word Marathon）  
出題範囲を生徒が確実に取り組むことができる範囲にする。計画的かつ具体的に生徒に提示し取組を促す。

#### 検証 2

出題形式を提示することは、学習活動を焦点化することになり、「これだけやればできる！」と、主体的に、安定した学習を進めることができた。1つ1つの小テストを大切に積み重ねることができた。

## 研究の成果

昨年度こだわって取り組んだ月例単語テスト（Word Marathon）や、概要・要点把握、要約等の「総合的な活動」を継続して行うことを前提とした上で、読解力の弱さの克服、学力の定着を目標に計画的に取り組んだ。所属学年スタッフ全員が、最後まで粘り強く徹底した指導を行うことにより、生徒側も徐々に真剣に受け止め学習に向かうことができたと思われる。

## 今後の課題

学習計画、学習内容を具体的に提示することや、1・2年次に取り組んできたことを継続して行うことにより、生徒が安心して学習活動に取り組むことが出来る環境を整えていきたい。

21年度新たに取り組みたいこととして、①「書く」場面の積極的な設定 ②「聞く」場面の積極的な設定 ③読解力の更なる向上（多読と精読の組み合わせ）、以上3つが挙げられる。効果的な取組方を検討し、書く力、聞く力、読解力の養成を目指す。